

NO.162  
2004.4.15

# jsse

## 日本科学教育学会

日本科学教育学会 (Japan Society for Science Education)  
発行：木村捨雄 (国立教育政策研究所内)  
〒 153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22  
TEL : (070)5541-6615 (専用 PHS) / FAX : (03)3714-0986  
e-mail : [jimukyoku@jsse.jp](mailto:jimukyoku@jsse.jp)  
URL : <http://www.jsse.jp>

# 科学教育研究レター

## 目 次

年 会	pp.2-7
第 28 回年会案内 (第 4 次)	
理事会だより	pp.8-9
第 203 回理事会報告	
編集委員会だより	p.10
支部会だより	pp.11-12
中国支部研究大会のご案内	
北陸甲信越支部の活動報告	
研究会だより	pp.13-15
第 5 回研究会プログラム案内 (5/15) 愛知教育大	
第 6 回研究会プログラム案内 (6/12) 信州大	
国際交流委員会だより	p.16
広報委員会から	p.16



## 第28回年会のご案内（第4次）

年会企画委員会・年会実行委員会

今夏の年会は千葉大学で開催されます。会員の皆様はもちろん、周囲の方々をお誘いの上、奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

1. 年会テーマ 社会に生きる科学教育
2. 期 日 平成16年（2004年）8月6日（金）～8日（日）
3. 会 場 千葉大学西千葉キャンパス・教育学部・けやき会館  
（〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33）
4. 交通機関 〔JR〕 JR総武線 西千葉駅下車 徒歩10分  
〔京成電鉄〕 京成千葉線 みどり台駅下車 徒歩10分
5. 主 催 日本科学教育学会  
後 援 千葉大学、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県高等学校教育研究会  
理科部会、同 数学部会、千葉県教育研究会理科教育部会、同 数学教育部会、  
ちばサイエンスの会、宇宙航空研究開発機構(JAXA)
6. 日 程（予定）

	8月6日（金）		8月7日（土）	8月8日（日）	
9:00	受付		受付	受付	
10:00	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	研究発表 学会企画課題研究	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	科学教育 実践 セミナー
11:00			科学教育セミナー	昼食・各種委員会	
12:00	昼食・各種委員会		昼食・各種委員会	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	JAXA きぼう 教育利用 ワーク ショップ
13:00	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	総 会 <含：国際学術交流 特別スピーチ>	理事会（新）	
14:00					
15:00	休憩		休憩・準備		
16:00	研究発表 自主企画 課題研究 一般研究	ワーク ショップ	シンポジウム		
17:00	理事会（旧）				
18:00	顧問 評議員 支部役員会	若手の会	懇親会		
19:00					
20:00					

理事会（旧）：8月6日（金）17時30分～18時、千葉大学 けやき会館

理事会（新）：8月8日（日）14時30分～15時30分、千葉大学 けやき会館

顧問・評議員・支部役員会：8月6日（金）18時～20時、千葉大学 けやき会館

総会：8月7日（土）13時30分～15時、千葉大学 けやき会館

懇親会：8月7日（土）18時～20時、千葉大学 生協第1食堂

その他の委員会等を計画の場合は、年会実行委員会事務局までお知らせ下さい。

## 7. 内 容

次に示すものを企画しています。日程、概要、発表者等につきましては、詳細が決まり次第順次、年会専用ホームページ（HP）で案内させていただきます。

### (1)シンポジウム

本年会のシンポジウムのテーマは、次の通りです。詳細は現在準備中です。

「科学のための科学」から「社会のための科学」と学会の果たす役割：

新生日本科学教育学会に向けて（仮題）

### (2)学会企画課題研究発表

学会として現在重要と考えるテーマについて、研究発表し討議するものであり、現在までのところ、6件が用意されています。

科学教育の根本的な変革をめざして

- 国際的動向を踏まえ、日本の特色が発出する科学教育の基盤の再構築を求めて -

オーガナイザー：下條隆嗣（東京学芸大学）・木村捨雄（名城大学大学院）

概要：理科嫌いや低い科学リテラシーなど、将来の日本にとって大きな問題となる事態に対して、その解決に根本的に取り組むために、科学教育基盤の再構築を含む根本的な課題について見つめ直す時期に来たように思われる。学会会議の再編成や国際的動向も踏まえつつ、これらの課題を掘り下げ、解決の道をさぐり、科学教育の日本の特色を出すようにするための一助となるシンポジウム形式の課題研究としたい。

科学教育再構築に向けての提言（II）

オーガナイザー：角屋重樹（広島大学大学院）

概要：数学科や理科及び技術科などの3教科において、小学校教師や中学校教師などに対する実態調査からの指導内容の検討や教員養成カリキュラムなどをもとに、数学科や理科及び技術科のこれからの教育課程に関して具体的な提言を行うことを目的とする。

教科間・科目間のカリキュラム連携の可能性を探る

オーガナイザー：伊藤 卓（教科「理科」関連学会協議会）

概要：ここ四半世紀の科学技術の飛躍的な進歩により、人々の生活は格段に豊かになった。所謂飽食の時代の到来とともに、多くの若者の意識からハングリー精神が遠のき、知的好奇心を駆り立てる動機付けがともすれば欠落しかねない。論理的思考力の涵養が重要な使命のひとつである教科「理科」においてはこの問題はとりわけ深刻であり、身の回りの事象に関心を抱き、知的好奇心を駆り立てるための、抜本的な教科内容と授業方法の点検が必要である。この趣旨で、これまでの独立した「教科」・「科目」の内容を見直し、例えば理科と国語・数学・社会科等々の教科間、さらには物化生地の理科の科目どうしの間で連携し、再編することの功罪について議論を交わしたい。小・中・高・大いずれの教育段階についてでも、まずは様々な立場・視点からの問題提起が期待される。

学校・博物館・地域における関係性の構築 - 科学コミュニケーションの活性化 -

オーガナイザー：小川義和（国立科学博物館）

概要：学校、博物館等は、これまでそれぞれ異なるミッションを持ち、独自の方法・内容で教育活動を展開しながら、科学教育の一翼を担っている。本課題研究では、それぞれの立場で科学教育に取り組む実践者が、学校・博物館・地域の連携を共通のキーワードとしてその実践と成果について報告する。また、ここでは科学コミュニケーションを「学校・博物館・地域の連携を通じた科学との関係性の構築の過程」ととらえ、連携を維持していくためのマネージメント、連携における人の役割と人材育成、などについて考えていく。

高等科学教育に求められる資質とは何か - 初等中等理科教育と高等科学教育の乖離を考える -  
オーガナイザー：鈴木 誠（北海道大学高等教育機能開発総合センター）

概要：高等科学教育は、今まで研究者やエンジニアの育成、一般市民の科学的素養の涵養といった2つの大きな役割を担ってきた。しかし、近年の大学生の学力低下や学ぶ意欲の喪失は、これらの役割を阻害する大きな要因となってきている。また、急速に変化する社会は、さらに多様な資質やスキルを具備した科学技術系の人材を求めてきている。大学は、これらの問題を解決するために、どのよう

な取り組み(授業改善)をすべきなのだろうか。また、何を初等中等理科教育に求めるべきなのだろうか。本セッションでは、科学教育に必要な資質に焦点を当てながら、何が不足しているのか、それを伸ばすにはどのような手法が必要なのかについて、具体的な実践を基に議論しようというものである。

新世紀型理数科系教育の展開をめざして

オーガナイザー：東原義訓（信州大学）・瀬沼花子（国立教育政策研究所）

概要：文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」の「新世紀型理数科系教育の展開研究」では、精力的に研究が推進されている。本課題研究では、そこで取り組まれている研究の新たな視点やこれまでの成果などを紹介していただき、これからの理数科系教育のあり方について検討し、それを踏まえて日本科学教育学会の今後のあり方についても討論する。本学会会員以外の特定領域研究の研究者からの発表、参加も期待されている。なお、本課題研究は、「ITを利用した先導的で実効性の高い教授・学習システムの研究」と「教育内容と学習の適時性及び論理的思考力・創造力育成に関する研究」の2つのテーマに分かれて実施される予定である。

### (3)科学教育セミナー

独創的・先端的な科学教育研究を牽引している研究者の講演をお願いしています。本年度は、次の2件を予定しています。

理数長期追跡研究 - 縦断的研究で何がわかったか -

松原静郎（国立教育政策研究所）

教師の実践的知識を基盤とする循環的な研究方法論

益子典文（岐阜大学総合情報メディアセンター）

### (4)科学教育実践セミナー

地域で推進する科学教育：ちばサイエンスの会の活動を中心とした事例（仮題）

オーガナイザー：鶴岡義彦（千葉大学教育学部）他

概要：科学教育は学校の理科教育だけで行われるのではない。地域の学校、科学館、大学、企業、市民団体などが連携すれば、青少年の理科教育はもちろん一般市民の科学的素養の向上も期待できる。今回は、千葉のユニークな団体NPO法人「ちばサイエンスの会」の活動を取り上げ、様々な立場からの発言を踏まえて、地域における科学教育活動推進のあり方を探る。

発表：鷹野敏明（千葉大学大学院自然科学研究科） 多賀治恵（千葉市郷土博物館）

深山輝夫（千葉市少年少女科学クラブ代表） 今井 功（千葉市立緑町中学校）

### (5)自主企画課題研究発表

会員の個人ないしグループが重要と考え企画したテーマについて、研究発表し、討議します。平成16年3月までに、以下の11件の企画が決定しています。

数学的モデリングの研究と実践の動向について（仮題）

オーガナイザー：佐伯昭彦（金沢工業高等専門学校）

海外の小中高一貫の技術科教育の動向

オーガナイザー：山崎貞登（上越教育大学）・宮川秀俊（愛知教育大学）

m-learning：モバイル環境を利用した教育の可能性

オーガナイザー：加藤 浩（メディア教育開発センター）

SPP事業「保護者に対する科学教室」（仮題）

オーガナイザー：佐伯 胖（青山学院大学）

再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアを利用した科学教育の実践的展開（2）

オーガナイザー：舟生日出男（茨城大学）

小学生と製作活動

オーガナイザー：伏見陽児（千葉大学）

ユビキタス社会における学習環境のデザイン

オーガナイザー：加納寛子（愛知産業大学短期大学）

**Japanese science education from the view point of Australian researchers**

オーガナイザー：山下修一（千葉大学）

科学の目で見る日常の疑問データベースの開発

オーガナイザー：稲場秀明（千葉大学）

数学教育における教育協力経験のモデル化へのパースペクティブ（仮題）

オーガナイザー：磯田正美（筑波大学）

諸外国の算数・数学教育（仮題）

オーガナイザー 瀬沼花子（国立教育政策研究所）

#### (6)一般研究発表

会員の個人やグループがそれぞれの関心に基づいて行う研究発表です。今回から、新しい15のセッション名の下で100件以上の研究発表・討議が行われると見込まれています。一件あたり発表15分・質疑応答5分の予定です。なお、本年度はポスター発表については予定していません。

#### (7)ワークショップ

現在、4件のワークショップが予定されています。

学校教育用グループウェアを用いた学校間共同学習

企画：余田義彦（同志社女子大学）・山野井一夫（筑波女子大学）

概要：スタディノートは非同期型の協調学習を支援する学習ソフトである。ワークショップでは、このシステムを使った学校間共同学習の事例として茨城県南地域の学校で行われている授業実践を紹介する。次に、このシステムを使った共同学習の実際を体験してもらい、それをもとにして学校間共同学習を成功させていくための方策を考える。

デジタル・コンセプトマップ入門（2）：再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア

企画：稲垣成哲（神戸大学）・舟生日出男（茨城大学）・山口悦司（宮崎大学）・出口明子（神戸大学大学院）

概要：昨年引き続き、再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア「あんどくん」の概要とその最新版を紹介するとともに、その授業実践における利用のポイントについて話題提供します。最新版では、再生機能に「ブックマーク」機能を追加し、再生プロセスのマーキングを可能にしました。このことにより、コンセプトマップの作成プロセスのどこで考えが変わったのか、どこで迷ったのかなどについて学習者自身のモニタリング支援を強化しました。ワークショップでは、実際に「あんどくん」を体験していただきながら、本ソフトの教育実践への利用可能性について考えてみたいと思います。

反復再生可能型描画システムPolkaを使う科学的モデルの学習支援

企画：中山 迅（宮崎大学）・林 敏浩（佐賀大学）

概要：反復再生可能型描画システムPolkaは、宮崎大学教育文化学部の中山迅と佐賀大学理工学部の林敏浩が協同で開発している理科学習支援用のWindowsソフトです。理科では、児童・生徒に自然の仕組みについての考えを表現させるために線を使った絵を描かせることがあります。「描画法」と呼ばれるこの方法は、自然の仕組みをモデル的にとらえさせる学習において特に有効です。しかし、紙の上に描く場合は、児童・生徒の考えが変わった時には改めて描き直さなければなりません。そこで、このソフトウェアを使えば、描いたものを修正しながら新しい考えを表現することができます。しかも、描画のプロセスが記録されて、何度でも再生可能なので、自分の思考過程を振り返ったり、少し前の描画まで戻って描き直したりすることができます。このセミナーでは、Polkaを実際に使っただきながら、理科授業での利用についてみなさんといっしょに考えたいと思います。

簡易テクノロジーを活用した物理と数学との総合学習（2）

企画：佐伯昭彦（金沢工業高等専門学校）・土田 理（鹿児島大）ほか

概要：簡易テクノロジー（グラフ電卓、データ収集機、各種センサー）を活用した物理と数学の総合学習の教材を実際に体験し、その有効性を議論する。

#### (8)若手の会

今回の年会では、いわゆる「若手」のための会合を開催します。20代・30代の年会参加者のみなさま、ぜひご参加ください。日時（予定）：8月6日（金）18：00～20：00、場所（予定）：けやき会館1Fの食堂コルザ、参加費（予定）：学会員1,000円／非会員1,500円。なお、若手の会の紹介は、本

レターの別項にも詳しく述べられています。

#### (9) 業者展示

業者による教材、教具、書籍などの展示・演示を予定しています。

#### (10) きぼう教育利用ワークショップのご案内（本学会後援事業）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）主催、本学会と文部科学省とが後援する事業である。

趣旨・目的：日本は、国際宇宙ステーション計画に、実験モジュール「きぼう」（愛称）を開発・提供することを通して参加している。「きぼう」の打上げは2006年頃の予定だが、「きぼう」では、宇宙環境を利用した実験・研究、天体観測、地球観測、技術開発などが行われる予定である。更に教育利用などが提言されている。こうした動きを受け、昨年8月に、「きぼう教育利用ワークショップ」を開催し、教育関係者と意見交換を行った。参加者からの継続希望も多く、今回第2回目のワークショップを開催することとした。

内容（予定）： これまでのJAXA教育プログラムの紹介  
国際宇宙ステーションの教育利用に関する実践報告  
NASAにおける国際宇宙ステーション教育者ワークショップ報告  
宇宙飛行士などによる基調講演  
パネルディスカッション

参加費：このワークショップのみに参加する場合は無料。

### 8. 申込み要領

#### (1) 参加申込み

申込期間：5月1日（土）～6月30日（水）必着

近日中に開設される学会HPにリンクした年会参加等申込専用HPからの申込みを原則とします（事務局の作業負担を軽減するために、できるだけこの方法を御利用下さい）。ただし、レター本号に同封の「参加・発表申込み票」を郵送する方法も認めます。郵送先は、年会実行委員会事務局です。

#### (2) 一般研究発表の申込み

申込期間：5月1日（土）～6月10日（木）必着

近日中に開設される学会HPにリンクした年会参加申込専用HPからの申込みを原則とします（事務局の作業負担を軽減するために、できるだけこの方法を御利用下さい）。ただし、レター本号に同封の「参加・発表申込み票」を郵送する方法も認めます。郵送先は、年会実行委員会事務局です。なお、第1発表者（学会員に限る）として、一般研究発表と自主企画課題研究発表を行える上限は、それぞれ1件とします。学会企画課題研究については、上限規制の対象外です。

#### (3) 年会論文集の原稿提出

提出期間：5月1日（土）～6月10日（木）必着

年会論文集投稿規定・同論文集執筆要領（学会HPに掲載予定）に則って原稿を作成し、上記の期間必着で、郵送して下さい（E-mailによる送信は認めません）。郵送先は、年会実行委員会事務局です。なお、提出用封筒には、必ず「年会論文集原稿在中」と明記して下さい。

#### (4) 参加費・懇親会費

参加費等の送金は、郵便振替用紙で1人につき1枚、送金内訳を明記して合計金額を送金して下さい。各種申込費用及び送金先の郵便振替口座は、次の通りです。

年会参加費：一般会員7000円、学生会員5000円（年会論文集代を含む）

ただし、6月末日までに納入の場合は、それぞれ500円引きの6500円、4500円とします。

年会論文集の追加購入費：年会論文集を追加購入する場合は、1冊3500円

懇親会費：一般・学生ともに5000円。

郵便振替口座：00120-7-333768 加入者名：日本科学教育学会第28回年会

#### (5) 出張承認申請書発行申込み

ご希望の方は、80円切手を貼り宛名を記入した返信用封筒を同封した上で、年会実行委員会事務局に申し込んでください。その際、所属機関・部署、所属機関の所在地、所属長の氏名、出張期間をお知らせ下さい。なお、申込期間は、5月1日～6月10日（必着）とします。

## 9. 宿泊施設

宿泊の斡旋はしませんが、次に近隣のホテルとその電話番号を紹介しておきます。

< J R 総武線千葉駅、京成電鉄京成千葉駅・千葉中央駅周辺 >

京成ホテルミラマーレ	(043)222-2111	スーパーホテル千葉駅前	(043)255-9000
千葉パールホテル	(043)247-8080	千葉ワシントンホテル	(043)222-4511
東横イン千葉駅前	(043)227-1045	パーディーホテル千葉	(043)248-5551
ホテルサンガーデン千葉	(043)224-1131		

< J R 京葉線稲毛海岸駅・海浜幕張駅周辺 >

サアラ稲毛海岸ホテル	(043)277-9330	東横イン千葉幕張	(043)242-1045
ホテルグリーンタワー	(043)296-1122	幕張プリンスホテル	(043)296-1111

## 10. その他

### (1) 会場への交通

[ J R ] 総武線西千葉駅から徒歩 10 分。西千葉駅は、秋葉原駅から各駅停車で約 50 分。東京駅からは総武・横須賀線快速で一駅手前の稲毛駅まで約 40 分乗り、各駅停車に乗り換える。

[ 京成電鉄 ] 京成千葉線みどり台駅から徒歩 10 分。

### (2) 第 28 回年会実行委員会 (参加申込・発表申込・発表原稿の送り先です)

委員長：貫井正納 (千葉大学教育学部教授) 副委員長：島田和昭 (千葉大学教育学部教授)  
事務局長：鶴岡義彦 (千葉大学教育学部教授) 事務局次長：藤田剛志 (千葉大学教育学部助教授)  
実行委員：伏見陽児 (千葉大学教育学部教授) 松尾七重・山下修一 (千葉大学教育学部助教授)  
山崎忠義 (千葉県立匝瑳高等学校長) 土井 仁 (佐倉市立臼井南中学校長)

連絡先：〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1 -33 千葉大学教育学部

日本科学教育学会 第 28 回年会 実行委員会事務局

事務局 TEL: (043)290-2606 E-mail: [tsuruoka@faculty.chiba-u.jp](mailto:tsuruoka@faculty.chiba-u.jp) (鶴岡義彦)

TEL: (043)290-2607 E-mail: [fujitakc@faculty.chiba-u.jp](mailto:fujitakc@faculty.chiba-u.jp) (藤田剛志)

TEL: (043)290-2692 E-mail: [syama@faculty.chiba-u.jp](mailto:syama@faculty.chiba-u.jp) (山下修一)

### (3) 年会企画委員会

委員長：村瀬康一郎 (岐阜大学) 副委員長：片平克弘 (埼玉大学) 稲垣成哲 (神戸大学)

担当及び問い合わせ先： 余田義彦 (同志社女子大学) [yoden@myad.jp](mailto:yoden@myad.jp)

稲垣成哲 (神戸大学) [inagakis@kobe-u.ac.jp](mailto:inagakis@kobe-u.ac.jp)

## 「若手」のみなさん、ご参加ください!

今回の年会では、20代・30代の大学院生や小学校・中学校・高等学校・大学の教職員といった、いわゆる「若手」のための会合を開催します。この会合は、「若手ならではの自由な雰囲気の中で、若手同士がお互いの研究内容や研究関心について知り合う」ことを目的としています。事前の申込は不要です。当日、会場に直接お越しください。多数のご参加をお願い申し上げます。

日時 (予定): 8月6日 (金) 18:00 - 20:00

場所 (予定): けやき会館 1F の食堂コルザ

参加対象: 20代、30代の年会参加者

学会非会員の方も参加できます

40代以上の自称「若手」の方も歓迎します

参加費 (予定): 学会員 1,000 円 / 非会員 1,500 円

\* 若手の会 (仮称) 企画担当委員:

銀島 文 (金沢大学) [ginshima@ed.kanazawa-u.ac.jp](mailto:ginshima@ed.kanazawa-u.ac.jp)

久保田英慈 (愛知産業大学三河中学校) [kubota@asu.ac.jp](mailto:kubota@asu.ac.jp)

森田裕介 (長崎大学) [ymorita@net.nagasaki-u.ac.jp](mailto:ymorita@net.nagasaki-u.ac.jp)

山口悦司 (宮崎大学) [etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:etuji@cc.miyazaki-u.ac.jp)

# 理事会だより

## 日本科学教育学会第203回理事会報告

(議事録承認前。要点のみ参考掲載)

日時 2004年3月21日(日) 14:00～17:00

会場 国立教育政策研究所 南館大会議室

出席者 会長：木村

理事：稲垣、清水(康)、瀬沼、戸北、中山、鳩貝、伊藤、浦野、小川、熊野、  
藤田、松香、吉川、余田 監事：三宅、大高

事務局長：吉岡 オブザーバー：貫井正納(第28回年会実行委員長)

### 1. 議事要録(案)の承認

第202回理事会議事要録(案)を承認した。

### 2. 報告事項

#### 1) 機関誌編集

第28巻第1号(特集号)の発行 8篇(総説・展望1篇、研究論文5篇、資料1篇、実践論文1編)

第28巻第2号(和文号)の準備 8編(研究論文4編、実践論文4編)

第28巻第3号(和文号)の準備 2編(研究論文2編)

「科学教育研究」の審査状況

審査中論文30編(和文29編、英文1編) 新規投稿論文3編(和文2編、英文1編)

投稿論文数合計、前年度との比較

2002年2月から2003年1月まで 和文 45編 英文 4編 合計49編

2003年2月から2004年1月まで 和文 42編 英文 5編 合計47編

#### 2) 年会・学会賞

2月11日に第6回年会企画委員会を千葉大学で開催した。

2004年度学会賞候補者推薦の募集について、ニューズレター(No.161)及びHPで告知を行った。

#### 3) 研究会

本年度内に次の二つが予定されている。

5/15(土)「臨床的研究の方法」(愛知教育大学)

6/12(土)「現職教員研修とe-Learning」(信州大学)

#### 4) 学術交流

第3回科学教育研究連絡委員会が3月16日に開催された。

科学教育研究連絡委員会シンポジウム「科学のための科学」を基盤にした“社会のための科学”に向けた新世紀の科学教育が3月16日13:30から日本学術会議会議室において開催された。

第64回教科「理科」関連学会協議会が3月17日に開催された。

#### 5) 事務局

2004年度大川賞出版賞候補推薦依頼を受付、HPに掲載した(1月13日)。

SPP事業案内の掲載依頼を受付、HPに掲載した(1月16日)。

### 3. 協議事項

#### 1) 入退会希望者等について

入会希望者10名、退会希望者7名、退会取消者1名が承認された。

[入会希望者]

**非公開**



〔退会希望者〕

**非公開**

〔除籍取消者〕

**非公開**

\*現在会員数 1,182名

(正会員1,145名、学生会員28名、公共会員2名、賛助会員3名、名誉会員4名)

## 2) 年会・学会賞について

学会賞

- ・各種学会賞の候補者の推薦を現在募集中である。
- ・国際貢献賞(仮)の新設について  
資料に基づいて国際貢献賞(仮)の新設の提案を受け、協議した。文案をさらに整理して他の賞との整合性を図り次回に再協議し、来年度から適用することとする。

第28回年会

- ・準備状況について資料に基づいて報告を受け、協議が行われた。主な内容は以下のとおり。  
年会日程案を一部修正し承認した。  
若手の会(仮称)の開催を承認した。  
科学教育セミナー、学会企画課題研究、自主課題研究、ワークショップ、一般研究発表のセッション構成について承認した。また、年会参加申し込み等システムについて継続して検討し、早急に案を確定することとした。  
年会参加者の会員、非会員の扱いについて年会企画委員会でガイドラインを作成することとした。

## 3) 韓国 KARSE との国際交流

国際交流委員会からの提案を受けて協議が行われた。主な内容は以下のとおり。

1. 講演の名称は、「国際学術交流特別スピーチ」としておく。最終的には、会長、年会企画委員会、そして国際交流委員会で協議して決める。
2. 時間は、30分程度に短縮してもらうように交渉する。
3. 講演の内容には、アジアの科学教育研究の今後の連携の可能性を含めた形で、これを今後の日韓での協力のスタートとすることを含んでいただくように依頼する。
4. 時間設定は、年会企画委員会で調整する。
5. 今回は課題研究を設定しない。
6. 協定内容などは、KARSEの会長が来たときに、会長間で協議して、これから時間をかけて進めるようにする。

## 4) 役員選挙について

スケジュールについて承認した。

- ・役員候補者名簿への掲載のお願い(承諾を得る)と選挙公報の原稿依頼を発送 3月26日
  - ・投票用紙等の郵送 4月下旬
  - ・投票締め切り 5月28日(金)
  - ・開票 6月3日(木)
- 役員候補者について協議し以下のとおりとなった。
- ・会長候補者については近日中に会長、副会長で協議し決定することを了解した。
  - ・理事候補者25名を決定した。
  - ・監事候補者2名を決定した。

## 5) その他

次回第204回理事会予定は2004年5月15日(土)14時から17時

# 編集委員会だより

平成16年3月21日(日)(12:00～14:00) 国立教育政策研究所において、第5回編集委員会が開催されました。議題は、新規投稿論文の査読者決定、IT化に伴う査読のあり方、査読内規の改定についてでした。

議題では、3編の新規投稿論文の査読者を資料に基づいて決定いたしました。議題は、これまでの編集委員会で何度か取り挙げられてきた査読者の匿名性に関わる議題でした。現在、Web上で論文を投稿する場合には、著者名、所属情報を除いた審査用論文ファイル(PDF版)を添付することが求められています。これは、できる限り不必要な情報を漏らさないための措置でした。しかし、従来の査読と大きく異なりました。これまでの討議を踏まえ、最終的には、編集上の倫理規定を明記することによって、従来の査読に戻すという方向性を示すことができました。議題は、前回の編集委員会からの継続議題でした。先のニュースレターで、「次回編集委員会において、査読内規の改正という形でとりまとめを行う予定です」と書きましたが、議題とも関わる問題でもあり、改定の指針を示すことまでしかできませんでした。次回、平成15年度の最後の編集委員会には、査読内規の改定を行い、新編集委員会に引き継ぐことができるようにしたいと存じます。

特集号「次期学習指導要領のあり方をめぐって」につきましては、皆様のご協力を賜り、予定通り、発行することができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。なお、最近1年間の学会誌の編集状況は、下の表の通りです。現時点で、英文号の掲載論文が2編しか決まっておりません。審査中の英文論文もわずか2編です。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

次回の編集委員会は、平成16年5月15日(土)に、国立教育政策研究所で開催する予定です。編集委員会に対するご意見等がございましたら、お知らせ下さい。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況  
(平成16年3月26日現在)

年 月	新規投稿論文数		掲載決定論文数(掲載号)		掲載拒否 (辞退) 論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2003年 4月	3		1 (27-3)		
5月	6	1	1 (27-3)	2 (27-4)	(1)
6月	2	1	2 (27-3)		(1)
			1 (27-5)		
7月	1	1	2 (27-5)	1 (27-4)	3 (1)
8月	2		2 (27-5)		1 (1)
9月	5	2	1 (27-5)	2 (27-4)	(2)
10月	3			1 (27-4)	1
				1 (28-3)	
11月	3		1 (28-1)		
12月	8		1 (28-1)		1
			3 (28-2)		
2004年 1月	6		6 (28-1)	1 (28-3)	2 (2)
			2 (28-2)		(1)
2月	3		1 (28-2)		
3月	4	1	2 (28-2)		1

# 支部会だより

## 平成 15 年度日本科学教育学会中国支部研究大会のご案内

中国支部長 岡山大学教育学部 近藤 勲

学会中国支部では、中国地方 5 県のスーパーサイエンスハイスクール及び理科大好きプランにかかわる研究交流の大会を予定しております。大会では、科学技術・理科教育推進にかかわるシンポジウム、ならびに推進事業の研究指定校の取り組みを中心に研究発表・交流をできればと考えております。年度始めのお忙しい時期とは存じますが、研究大会へのご参加をいただけますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

- 主 催 日本科学教育学会中国支部  
後 援 広島県教育委員会（予定）他  
日 時 平成 16 年 5 月 22 日（土） 13:30 ~ 17:30  
場 所 県立広島女子大学（〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71）2 棟大講義室  
他  
内 容 科学技術・理科教育推進にかかわるシンポジウム、ならびに中国地方 5 県のスーパーサイエンスハイスクール及び理科大好きプラン指定校による研究発表・交流（プログラムをご参照下さい。）  
参 加 費 1,000 円（資料代を含む。）  
大会事務局 日本科学教育学会中国支部（広島県支部）  
角屋重樹（広島大学大学院教育学研究科）・藤井浩樹（県立広島女子大学生生活科学部）

お問い合わせ先：藤井浩樹

TEL：(082)251-9826 FAX：(082)251-9405 e-mail：hfujii@hirojo-u.ac.jp

### プログラム

#### 【シンポジウム】

テーマ 「科学技術・理科教育の充実をめざして 現状と課題」

時 間 13:30 ~ 15:30

司 会 近藤 勲（岡山大学教育学部）

シンポジスト 藤原凡人（広島県安芸郡府中町立府中中央小学校）

加賀田剛（鳥取県立鳥取東高等学校）

小林 悟（岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所）

角屋重樹（広島大学大学院教育学研究科）

#### 【研究発表】

テーマ 「小・中・高等学校における科学技術・理科教育推進の取り組み」

時 間 15:30 ~ 17:30

## 会員ホームページのご案内

ID・パスワードの配布を受けていない方は事務局宛にメールしてください。

事務局メールアドレス：jimukyoku@jsse.jp

A会場：

広島県安芸郡音戸町立渡子小学校  
広島県高田郡八千代町立根野小学校  
広島県福山市立加茂小学校  
広島県立広島国泰寺高等学校  
鳥取県立鳥取東高等学校

B会場：

広島県佐伯郡大柿町立大古小学校  
広島県比婆郡東城町立帝釈小学校  
広島県広島市立中広中学校  
岡山県立岡山一宮高等学校  
広島大学附属中・高等学校

研究大会に先立って、10:00～11:00に支部総会を予定しております。

## 北陸甲信越支部の活動報告

日本科学教育学会北陸甲信越支部では、平成15年12月6日(土)午後3時～7時、富山大学総合研究棟で、高・大連携教育シンポジウム「高校大学連携により新しく生まれた教育の可能性を探る - 高校における新しい理科・数学教育の試み - 」を下記内容で開催した。

コーディネータ：森脇喜紀(富山大)

パネリスト：

大学関係

山西潤一(富山大)：これからの高大連携教育のあり方  
樋口弘行(富山大)：大学が提供する化学教育

高校関係

松本司朗(富山高)：SSHが高大連携講座で目指すもの・その効果  
寺崎清光(富山東高)：SSHプログラムの状況と学内教育での位置づけ  
山口康子(入善高)：自然科学コース行事とSPP事業の状況と位置づけ  
田中 保(高岡高)：SSHでの高大連携講座の位置づけ  
廣川松晴(富山東高)：SPP 報告会について



当日は、本年度SSH・SPP事業を実施した富山県内4高校に加えて、県内6高校、1高専、富山大学他、県内外の教育機関関係者約60名の参加をえて、「科学技術離れ」「理科離れ」の状況にあって、科学技術への興味関心を引き起こす高大連携の教育について活発な討論、質疑応答が行われた。特に、高大連携教育を長く、教育効果の上がる方法として実施していくための人的連携の問題、教材開発や指導法の開発の問題、入試への評価の問題等様々な問題について熱い議論が行われた。

# 研究会だより

## 平成 15 年度 第 5 回研究会 開催のお知らせ 第 6 部会：インタレスト部会

[テーマ]「科学教育における臨床的研究の方法」

[日時]平成 16 年 5 月 15 日(土) 9:30 受付 10:00 開催

[会場]愛知教育大学(自然科学棟)

[参加]発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。当日参加も可能です。

[参加費]『研究会研究報告』誌講読会員は無料、当日参加(『研究会研究報告』誌付)は、1,000 円(参加のみ 500 円) 当日に『研究会研究報告』誌講読会員になれる方は、4,000 円です。

[担当]吉田 淳・飯島康之(愛知教育大学)

[連絡・問合せ先]〒448-854 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 愛知教育大学

吉田 淳 TEL/FAX:(0566)26-2354 e-mail: ayoshida@aecc.aichi-edu.ac.jp

飯島康之 TEL/FAX:(0566)26-2329 e-mail: yijima@aecc.aichi-edu.ac.jp

[交通]名鉄知立駅から名鉄バス 1 番のりば「愛知教育大前」「日進駅」「三好」行き、「愛知教育大前」下車(約 20 分、340 円)

大学 HP (<http://www.aichi-edu.ac.jp/gaiyou/address.htm>) 等もご参照下さい。

[プログラム]

【シンポジウム】 10:00 ~ 12:30

基調講演:西川 純(上越教育大学)

コーディネータ:吉田 淳(愛知教育大学)

シンポジスト:平賀伸夫(愛知教育大学) 岸本忠之(富山大学) 益子典文(岐阜大学)

【総 会】 12:30 ~ 13:10

【一般研究発表】 13:30 ~ 16:30 (1 発表 20 分発表 10 分質疑)

1. 算数授業における「ずれ」について(仮)

井出誠一(長野県岡谷小学校) 志水 廣(愛知教育大学)

2. 静岡エネルギー環境教育プロジェクトの成果と課題

熊野善介・久田隆基・丹沢哲郎(静岡大学)

3. 臨床教育研究ツールとしての運勢ライン法

遠西昭寿(愛知教育大学) 久保田英慈(愛知産業大学附属三河中学校)

4. ユビキタス社会における学習環境のデザイン(仮)

加納寛子(愛知産業大学短期大学)

5. 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア:学校でどのように利用されているか?

稲垣成哲(神戸大学発達科学部) 山口悦司(宮崎大学教育文化学部)

舟生日出男(茨城大学人文学部) 出口明子(神戸大学大学院総合人間科学研究科)

[備考]日本科学教育学会東海支部会と共催します。東海支部総会はお昼の休憩時間に開催されます。東海支部の会員の方は是非ご参加ください。

## 平成 15 年度 第 6 回研究会開催のお知らせ 第 3 部会：科学教育 ICT 研究部会

[テーマ]「教員養成・現職教員研修と e-Learning 及び ICT 利用の教育実践」

[日時]平成 16 年 6 月 12 日(土) 9:15 受付開始 9:45 開会式 17:00 終了予定

[会場]信州大学しなのき会館(教育学部の敷地内、〒380-8544 長野県長野市西長野 6 - 口)

[交通案内]JR 長野駅善光寺口から、4 番のりば・市街地循環バス「ぐるりん号」で約 8 分「信州大学教育学部前」バス停下車徒歩約 4 分(9:30 から 20 分間隔で運行)または、1 番のりば・

川中島バス・善光寺方面行きで約6分「善光寺大門」下車徒歩約10分、いずれもバス片道100円。詳しくはこちらをご覧ください。<http://cert.shinshu-u.ac.jp/center/access.html>

[参加] 発表の有無にかかわらず会員ではない方も参加できます。当日参加も可能です。

[参加費] 『研究会研究報告』誌購読会員は無料、当日参加(『研究会研究報告』誌付)は、1,000円(参加のみ500円)、当日に『研究会研究報告』誌購読会員になれる方は、4,000円です。

[機器] 研究発表用に次の機器を利用可能です。

液晶プロジェクタ(+ Windows用接続ケーブル) OHP、スクリーン

ノートパソコンは各自ご用意下さい。

ビデオデッキの用意はありません。ビデオカメラと接続AVケーブルを各自ご用意下さい。

[担当] 東原義訓(信州大学教育学部)

[連絡・問合せ先] 〒380-8544 長野県長野市西長野6-口

信州大学教育学部附属教育実践総合センター 東原義訓

e-mail: [higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp](mailto:higashi@gipnc.shinshu-u.ac.jp) TEL/FAX: (026)238-4246

[プログラム] 1件の発表時間15分(発表12分・質疑3分)

開会式(9:45~10:00)

研究発表【IT活用・評価】(10:00~12:00)

10:00~ 小学校低学年におけるデジタルカメラの動画撮影機能を活用した自己評価、相互評価  
中村聡士(塩尻市立塩尻東小学校)

10:15~ 三年生から六年生まで系統的に進める総合的な学習の時間のカリキュラムの作成と評価  
~ルーブリックを活用して~  
山本秀樹(塩尻市教育委員会)

10:30~ 子どもにかかわる全ての教員が参加するリアルタイム児童評価ネットワークの開発と実践  
河西一樹(塩尻市立塩尻西小学校)

10:45~ INTASCスタンダードサイエンス版を活用した自己評価に基づく理科授業の改善  
富本保明(中野区立北原小学校) 山口京子(杉並区立済美小学校)  
濱脇哲也(練馬区立北原小学校) 傳幸朝香(新宿立東戸山小学校)

11:00~ 数値目標を示して取り組んだITを活用できる教員の増加  
熊原精一(長野市立大豆島小学校)

11:15~ 基礎学力向上のための小学生のためのe-Learningシステムの導入と効果  
中島研一(長野市立柳原小学校)

11:30~ 野外観察学習のためのモバイル環境の検討  
高藤清美・山島一浩(東京家政学院筑波女子大学)

11:45~ 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア:ユーザーのニーズを反映した機能拡張に対する教師の評価

出口明子(神戸大学大学院総合人間科学研究科) 山口悦司(宮崎大学教育文化学部)  
舟生日出男(茨城大学人文学部) 稲垣成哲(神戸大学発達科学部)

昼食(12:00~13:15) 学内の食堂は土曜日閉店です。弁当の斡旋はいたしません。  
大学周辺の食堂または善光寺周辺の蕎麦屋等をご利用下さい。

研究発表【総合学習、科学教育】(13:15~15:15)

13:15~ 松から広がる総合学習  
保坂 修(上越教育大学大学院) 濁川明男(上越教育大学)

13:30~ 杉から広がる総合学習  
竹内和俊(上越教育大学大学院) 濁川明男(上越教育大学)

13:45~ 高等教育における聴覚障害学生の情報保障  
鈴木恵美子・名越莉絵(東京家政学院筑波女子大学)

14:00~ 最先端研究者による科学伝道 - サイエンスメディアーションの可能性 -  
上島 豊(日本原子力研究所関西研究所)

- 14:15 ~ 科学教育ボランティア活動と物理について  
船田 優 (千葉県立船橋高校)
- 14:30 ~ 学校設定科目『科学技術』の15年度の取り組み  
~ものづくりを通じた創造性の育成を目指して~  
松森弘治 (京都教育大学附属高校)
- 14:45 ~ 異分野交流による参画型理科啓発手法  
古田 豊 (立教新座中学校・高等学校)
- 15:00 ~ 中学校理科教員の問題解決学習に関する実践的指導力向上の方略  
今田利弘 (上越教育大学大学院) 小林辰至 (上越教育大学)
- 休 憩 (15:15 ~ 15:30)
- 研究発表 【教員養成・教員研修】(15:30 ~ 17:00)
- 15:30 ~ ICTを活用した教育実習事前・事後指導 - NetMeetingによる遠隔講義の実践と課題 -  
谷塚光典・東原義訓 (信州大学教育学部)
- 15:45 ~ コミュニケーションカード「大福帳」を用いた教員養成大学の授業改善の試み  
南部昌敏 (上越教育大学)
- 16:00 ~ 岐阜県における教育委員会 - 大学の連携による現職教員研修の展開  
~ 10年経験者研修を中心とする岐阜大学の取り組みと e-Learning 活用 ~  
村瀬康一郎 (岐阜大学総合情報メディアセンター) 石川英志 (岐阜大学教育学部)  
加藤直樹・益子典文・松原正也 (岐阜大学総合情報メディアセンター)
- 16:15 ~ 学びたい人に、学びたいことを、的確に伝える教職員研修のための e-Learning 研修教材の  
開発  
片岡弓人 (千曲市立東小学校) 東原義訓 (信州大学教育学部)
- 16:30 ~ 科学教育における情報サイトの運営についての一考察  
川村康文 (信州大学教育学部)
- 16:45 ~ 理科教育における情報メディアの活用に関する研究(3)  
- 平成15年度神戸市の公立小学校での授業実施を通して -  
平井尊士 (兵庫大学) 川井和彦・高幣俊之・戎崎俊一 (理化学研究所)  
植松貞夫 (筑波大学) 吉田和正 (神戸市)

### 平成15年度日本科学教育学会研究会『研究報告』誌購読費納入のお願い

研究会「研究報告」購読料の請求(振込取扱表同封)を行ったところですが、振込みがまだお済でない方は下記の口座へお振込み頂きますようお願いいたします。購読料(年会費)4,000円(平成15年度の会計年度は、平成15年7月1日~平成16年6月30日)、ご自分の振込み状況を知りたい方は [tokita@juen.ac.jp](mailto:tokita@juen.ac.jp) へメールでお問合せください。

#### 日本科学教育学会 研究会事務局

研究会事務局(全体・諸連絡)

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学 戸北凱惟  
TEL&FAX: (025)521-3440 e-mail: [tokita@juen.ac.jp](mailto:tokita@juen.ac.jp)

研究会事務局(編集・印刷)

〒930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学教育学部 岸本忠之  
TEL: (076)445-6287 e-mail: [kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp](mailto:kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp)

発表申込先: 開催校担当者または研究会事務局(全体・諸連絡)

原稿送付先: 富山大学教育学部 岸本忠之 宛

『研究報告』誌購読費振込先: 郵便局払込取扱票にて

加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183

研究会ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

# 国際交流委員会だより

以下に示す国際会議が開催されます。奮ってご参加ください。

## SEAMEO-UNESCO Education Congress and Expo

May 27-29, 2004, Bangkok, Thailand, <http://www.seameo-unesco.org/>

Contact: SEAMEO-UNESCO Education Congress and Expo Secretariat, Mom Luang Pin Malakul Centenary Building, 920 Sukhumvit Road, Bangkok 10110, Thailand.

e-mail: [ec2@seameo-unesco.org](mailto:ec2@seameo-unesco.org)

## International Conference on Managing Teacher Education for Excellence

July 11-14, 2004, Bangkok, Thailand, [http://www.edu.chula.ac.th/interconference\\_july/](http://www.edu.chula.ac.th/interconference_july/)

Contact: Paitoon Sinlarat, Ph. D.

e-mail: [Paitoon.Si@Chula.ac.th](mailto:Paitoon.Si@Chula.ac.th), [Varaporn.B@Chula.ac.th](mailto:Varaporn.B@Chula.ac.th)

## APEC Seminar on Best Practices & Innovations in the Teaching & Learning of Science & Mathematics at the Secondary School Level

July 18-22, 2004, Kuala Lumpur, Malaysia, <http://www.moe.gov.my/adbid/apec/apecMain.htm>

Contact: Dr. Soon Seng Thah, Dr. Naimah Ishak

e-mail: [soonst@tm.net.my](mailto:soonst@tm.net.my), [apecprd@moe.gov.my](mailto:apecprd@moe.gov.my)

## 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 162 号を、お送りいたします。

「会員専用ホームページ」をまだご利用いただいてない方は、事務局宛にメールして自分用のパスワードを入手し、ぜひ、ご利用ください。

事務局メールアドレス：[jimukyoku@jsse.jp](mailto:jimukyoku@jsse.jp)

担当理事： 東原義訓（信州大）、吉川 厚（NTT データ）  
委 員： 大辻 永（茨城大）、川本佳代（広島市立大）  
銀島 文（金沢大）、隅田 学（愛媛大）  
高藤清美（筑波女子大）、人見久城（宇都宮大）  
森田裕介（長崎大）  
幹 事： 谷塚光典（信州大）

レター編集・印刷

〒153-8681 東京都目黒区下目黒 6-5-22

国立教育政策研究所内

日本科学教育学会広報委員会

TEL：(070)5541-6615 FAX：(03)3714-0986

e-mail：[jsse-pr@certms.shinshu-u.ac.jp](mailto:jsse-pr@certms.shinshu-u.ac.jp)